



◀白神特産の青果物をPRしたトップセールス

## 白神青果物をJAと行政が大消費地へPR

JAあきた白神

JAあきた白神の特産品「白神ねぎ」と「白神みょうが」を大消費地の関東圏へ売り込もうと、佐藤組合長と齋藤能代市長、佐々木藤里町町長が8月23日、24日の2日間、東京都の大田市場などを訪問しトップセールスを行いました。

トップセールスには佐藤組合長をはじめ各市町の首長、JA職員やミスフレッシュら10人が参加し、午前6時からはんてんを着用しPR活動を行いました。今年は「白神ねぎ」と「白神みょうが」の浅漬けを用意し、市場内を行きかう仲卸関係者やバイヤーに試食を提供しました。また、大田花きや横浜丸中青果も訪問し、白神青果物の魅力を伝えるとともに有利販売を求めてきました。

トップセールスを終え佐藤組合長は「青果物販売額20億円を達成するために、これからも有利販売を目指しより一層努力していく。生産者をはじめ各関係機関と連携し産地づくりに励んでいきたい」と話しました。



▲トップセールスの様子

## 食糧安全保障の確立を目指す

営農企画課

JA秋田中央会と秋田県農協農政対策本部は8月23日、秋田市で「食料・農業・地域政策の確立に向けた秋田県生産者大会」を開きました。秋田県副知事や県選出国會議員、全県JAの役職員や農家ら約1,000人が参加し、当JAからは約40人が参加しました。

大会では、JA全中の金井常務が環太平洋連携協定の新協定や農林水産関係の予算など、農政と農協改革や自己改革について説明しました。また、JA秋田中央会の近藤常務が食糧安全保障の確立や国内農業・農村の維持・発展などを内容とする申し合わせをし、満場の拍手で採択されました。



▲農業関連予算などが要請されました



▲晴天のもと多くの来場者で賑わった展示会

## 新型農機具がずらり！農業機械展示会

農業機械課

豊作の秋を目前に控え、JAあきた白神カントリーエレベーターで、8月21日と22日の2日間にわたり、農業機械展示会が開かれました。

会場には、メーカー自慢のコンバインやトラクター、草刈り機など様々な農業機械が並び、買い替えや備品の購入を目当てに多くの農家が来場しました。農機課職員やメーカー担当者から使用方法などを聞くなどし、目当ての農機具を購入していきました。また、農作業事故予防に向け作業安全講習会も開催され、草刈機の安全作業について担当者から研修を受け、参加者は出来秋を控え作業点検の重要性や内容について講師の話に耳を傾けていました。

